

Heart Letter vol.01

急性大動脈解離

はじめに

術後患者さんを外来で診察する際に二つの嬉しい瞬間があります。

一つ目は「呼吸が楽になった。」「病気に対する不安がなくなった。」など患者さんが手術を受けたことで良かったことを話してくれた時です。

二つ目は「この間どこどこに旅行に行ったよ。」「孫の運動会を見に行ってきた。」など病気を治すことで日常生活を楽しく過ごされていることを聞いた時です。

だけれど

楽しい話ばかりではありません。

「肩が痛い。」「夜眠れない。」「ドキドキすることがある。」「いつになったら良くなるのか。」など中には様々な症状や不安を訴える患者さんもいます。

第一回目は急性大動脈解離に対して二回もの手術を乗り切り、今ではお孫さんとの旅行が楽しみだとおっしゃられているTさんです。

急性大動脈解離は突然発症し、大動脈の壁の間に血液が流入する状態です。突然の胸部痛や背部痛が主な症状であり、これらの症状が重篤な場合にはショック状態や意識障害を伴うこともあります。

何かできないか

そういった患者さんに薬を処方したり診察を行ったりすることはできますが、ゆっくりお話を聞くことやつらさに共感することができず、何かできることはないかと考えていました。

他の人はどうか

患者さんの訴えや症状は患者さんが一番共感できるのではないかと。日常生活でのつらさや症状の情報共有をすれば不安の軽減や励ましになるのではないかと思い、Heart Letterという形を思いつきました。

日常生活のヒントに

Heart Letterを読むことで症状がとれるわけではないと思いますが、日常生活を少しでも楽しく快適に過ごす一助となれば幸いです。

心臓から出てすぐの上行大動脈が裂けているスタンフォードA型の場合、手術をしなければ24時間で約50%の方が命を落とすとされています。

このような重篤な疾患から自宅退院し、その後日常生活を過ごすことができるようになるまでどのような苦労があったのでしょうか。

お話を伺ってまいりたいと思います。

急性大動脈解離

Q 術後痛みの程度はいかがでしたか？

Tさん「手術直後は肩、腰、特に左肩の激痛で寝付けないほどでした。痛みは少しずつ改善してきましたが、術後半年後から和らいできました。」

Q 日常生活でどのような活動が難しいですか？

Tさん「台所仕事ができません。重いものを持つと息がつまるように感じたり、手が冷たくなったりします。少しずつ改善していますが、術後一年以上経過した今でもこれらの症状は続いています。」

Q 生活習慣を改善するために取り組んでいることはありますか？

Tさん「特にありませんが、よく寝ます。疲れを感じたら直ぐに床で横になると10～15分で回復します。」



Q 何か不安に思うことはありましたか？

Tさん「術後は全てが不安です。「この先元気になるのかなあ」と医師に問いかけた時に「元気に車の運転をされている方もいますよ」と返してくれました。その答えに私は大きな勇気もらったと思います。」

Q 最後にコメントをお願いします。

Tさん「術後から早2年になろうとしています。その間、医師の方々、看護介護の皆様や家族の支えのおかげで今日も元気です。有難いことに車の運転も毎日出来ております。

もう一人今の私の日常を支えてくれているのが「杖さん」です。この2年の間に弱った体をしっかりと支えてくれたので頼れる相棒です。体が重いと感じる方、疲れやすいあなたに是非お勧めです。また通院の時などは威力を発揮します。車内から「杖さん」をチラッと見せるだけでパーキングOKです。あなたも一度使ってみては？」

最後に

ユーモアを交えて退院後の経過をお話していただきました。

術後創部の痛みの感じ方は人それぞれで術後一年以上経過していても創部がピリピリと痛む患者さんや雨の日や風の強い日などは特別倦怠感を訴えられる患者さんなど多種多様です。

元気になるのかという不安はもっともで長期入院となればなおさらその不安は募るのではないかと思います。

率直な感想を伺い、とても大変な病気に対して根気強く闘っておられた姿が想像できます。

医療スタッフや家族に支えられながら元気に頑張っていますとのコメントは私達にとって最も嬉しい言葉の一つです。

もう一人の相棒と共に今後とも元気に日常生活をお過ごしいただけるよう、我々医療スタッフ一同心よりお祈りしております。